

授業科目名	書写・書道 (2100135)		
時間割名	書写・書道 (34110)		
時間割担当	小竹光夫		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	水・4		

授業の目標・概要

本講義では、「書写・書道入門」で理解した事項の内、硬筆と毛筆の関連学習を中心に実践的に学習する。中でも教材分析としての文字の捉え方、表現の仕方についての学習である。さらに、書写を指導する教員としての基本的な実技力を養う。日常の書写力低下が問題視される昨今、生徒の実態の分析・把握と毛筆・硬筆の関連性についての考察と実習を重点的に行う。

学習の到達目標

対象となる文字言語の歴史、特性、機能について考えとともに、伝達効率を高めるための文字表現（技術・技能）の在り方について学び、効率的で日常に生きて働く書写の力について理解を深める。特に初等教員が関わる国語科書写での学習指導の観点や方法、教材分析の実証的な学習展開を行う。

授業方法・形式

- 1.それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
- 2.必要に応じて、取り上げる内容に関する実証的なドリル（簡単な実技的試み）を行う。

授業計画

- 第1回 「書道」とは違う、「書写」という耳慣れない言葉をめぐって...それぞれの内容や目標の違いを知り、そのことによって生じる現代的諸問題について知識を広げる。
- 第2回 教育課程の流れから、現在の状態までを簡単にみよ...幼稚園から高等学校までの過程の中で、どのように文字言語と接近しているか概略を理解する。
- 第3回 「言語感覚」とは何だろう。どうやって形成されていくのだろう...「言語感覚」に繋がる「文字感覚」、文字認識について基礎的な知識を習得し、理解を深める。
- 第4回 「書写」とは、どの程度の範囲をカバーするのだろうか...一般社会の中に流通する「習字」という語を巡りながら、我々が関わる「書写」が求めている力について考える。
- 第5回 「イメージ」・「視覚」ということについて...視覚言語としての特性について考え、特性と問題点について学校という場で考えをまとめる。
- 第6回 遙かなる漢字への旅、平仮名、片仮名の書き方への道のり(1)...中国や日本での漢字文化の特性について考え、併せて歴史的な流れの中での位置付けを考える。
- 第7回 遙かなる漢字への旅、平仮名、片仮名の書き方への道のり(2)...渡来した漢字文化を発展させ、独自の言語文化を生じさせた日本での文字の歴史について考える。
- 第8回 遙かなる漢字への旅、平仮名、片仮名の書き方への道のり(3)...日本語の日常表記である漢字仮名交じりの、伝達における機能性の知識を広げ、理解を深める。
- 第9回 「正しい」という言葉の指し示すもの...小・中学校の国語科書写の実態把握と、指導にあたっての必須要件を知り、具体的な学びを知る。
- 第10回 字形・筆順・運筆の関連について...「書く」という行為の中で、求められる能力を考え、効率的な習得法について考える。

成績評価の基準

(授業計画の続き)

- 第11回 「書写」や「書道」の用具・用材について考えよう...硬筆書写と毛筆書写の関連の必要性について考え、学習に必要な用具・用材への理解を深める。
- 第12回 新しい書写指導のあり方と方法について...総合的な学習への取り組みを含め、現代生活における「文字を書くこと」の意義と価値を考える。
- 第13回 新しい書写教育の動向と研究分野...文字の書き方学習だけにとどまらない、言語教育につながる新しい書写教育への理解を深める。
- 第14回 身近な文字文化への関心と取り組み...文字を中心とした地域社会や文化とのつながりを考え、データ収集や研究の方法について考える。
- 第15回 授業の総括として、これまで身につけたことについてまとめる。

(成績評価の基準)

毎回の授業中に行う小レポートと毎回の課題レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。(30%)さらに、学習記録ノート(学生作成)の緻密さなどを評価する。(30%)さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する。(40%)

授業時間外の課題

- ・文部科学省編『中学校学習指導要領 国語編』を準備しておくことが望ましい。
- ・参考図書等については教員側で紹介するので、可能な限り入手して、積極的な学びを展開することを期待したい。

メッセージ

義務教育段階での文字習得と活用の重要性気付き、文字を自在に生かすことができる日常生活を、自らが率先して実行できるようになって欲しい。学びの基本は、興味関心に支えられた意欲である。

教材・教科書

授業中に指示する

参考書

授業中に指示する